

病気編



心臓病

「**寒暖差が、心臓の大きな負担に。高齢犬や持病のある犬はとくに注意して!**」

高齢期の小型犬種にとくに多い心臓病が、僧帽弁逆流症(僧帽弁閉鎖不全症)です。心臓の弁がきちんと閉じなくなり、血液が逆流して、咳や呼吸困難などを起こします。冬場、急に冷え込むと、全身の血管が収縮して血圧が上昇し、心臓に大きな負担がかかります。心臓に持病がある場合、急激な症状悪化で急死することもあるので、とくに気温の変化に注意してください。



急な冷え込みが体にこたえる～

「**運動不足で筋肉が衰えて、関節を痛めたり、寒さが痛みを引き起こすことも**」

関節のトラブル

寒いと運動量が減って、筋肉も衰えがちに。そうすると、筋肉が関節をしっかり支えられないため、関節を痛めやすくなります。また、痛みを感じる末梢神経は、寒くなるとより敏感になり、関節の痛みをいっそう悪化させることもあります。



運動不足になっちゃうんだよね

「**飲水量が減ったり、トイレを我慢したりすると、発症のリスクが高まります**」

泌尿器の病気

冬は、水を飲む量が減り、膀胱炎や尿路結石などの泌尿器の病気にかかりやすくなります。犬がいつでも自由に飲めるように、水を用意しておきましょう。尿路結石は食事内容が大きく影響するので、ミネラル量が適切に調整された、品質の良いフードを与えることも大切です。また、外で排せつする習慣の犬は、寒さで散歩を控えると、排尿をがまんして膀胱炎になることも。日頃から、室内で排せつできるようにトレーニングしておくことが望ましいですね。



いつでもお水が飲めるとうれしいな～

「**肥満は様々な生活習慣病の引き金になります**」

万病の元 肥満

冬は寒さから体を守るために、脂肪を蓄えやすくなります。しかも、散歩もつい控えがちで、運動不足から肥満の原因に。肥満は、心臓病、関節疾患、糖尿病など様々な生活習慣病を引き起こす健康の大敵です。体重管理をしっかり!

寒い季節に気をつけたい病気

- ウイルス感染症
- 呼吸器の病気
- 心臓病
- 関節のトラブル
- 泌尿器の病気
- 万病の元・肥満

お答えいただいた先生
おおし動物クリニック
大西 徹秀 先生

季節の変わり目は、お腹をこわして来院する子が増えますね。寒くなると持病をもっていたり、高齢の子は体調をくずしやすいので、よく気をつけてあげてください。



「**空気が乾燥して、鼻やのどのバリア機能も弱まっています**」

呼吸器の病気

冬に風邪やインフルエンザが流行るのは、空気の乾燥によって、鼻やのどの粘膜のバリア機能が低下し、細菌やウイルスに感染しやすくなるからです。犬には人のような風邪や季節性インフルエンザはありませんが、ジステンパーやケンネルコフなどの呼吸器系症状を示す感染症があります。激しい咳を伴い、気管支や肺に炎症を起こします。子犬はとくにかかりやすく注意が必要ですが、いずれもワクチンで予防できます。

ワクチンで防いでね



「**寒さで体温が下がり、免疫力が低下します。ワクチン接種を忘れずに**」

ウイルス感染症

冬は気温の低下や空気の乾燥により、ウイルスが飛散しやすくなります。また、寒さで体温が下がり、体の免疫力が低下しがちです。犬も体調を崩しやすく、感染症のリスクが高まる季節といえます。ウイルス感染症のなかには命にかかわる病気もあるので、ワクチン接種を忘れずに受けておきましょう。

ワクチン接種で防げる感染症

- 死亡率の高い犬の代表的な感染症 **犬ジステンパー***
- 嘔吐や下痢を引き起こす **犬コロナウイルス感染症**
- 激しい咳が特徴 **犬パラインフルエンザ感染症***
- 子犬はとくに死亡率が高い **犬パルボウイルス感染症**
- 他の動物や人にもうつる **犬レプトスピラ症**
- 子犬は一晩で死亡することもある **犬アデノウイルス1型感染症(犬伝染性肝炎)**
- 肺炎や呼吸器症状を起こす **アデノウイルス2型感染症(犬伝染性喉頭気管炎)***

*マークは呼吸器症状を示すもの

獣医師さんの健康講座

秋から冬に気をつけたいこと!

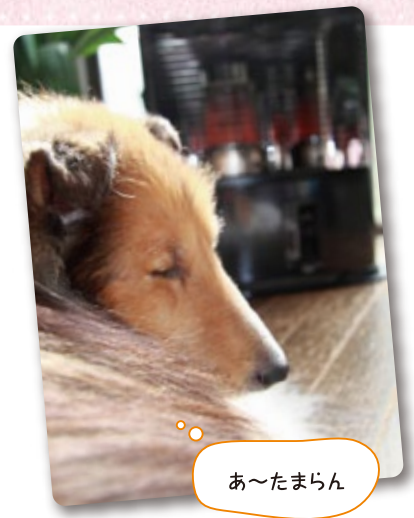
秋から冬にかけて寒くなると、かかりやすかったり、症状が悪化しやすい病気があります。正しい知識を持って、愛犬を守ってあげましょう。



「ストーブで毛を焦がしたり、ホットカーペットなどでの低温やけども要注意！」

暖房器具に注意

暖房器具によるやけどや事故にも注意してください。器具の周りを柵で囲ったり、人がそばにいられないときは、犬をケージやサークルへ。コードをかじって感電することもあるので、かじり癖のある犬なら、コードカバーなどで覆っておくと安心です。またカイロなどに長く体を密着させていると、低温やけどをすることがあります。毛布を敷いたり、カイロをタオルで包むなどして直接体に触れないようにしましょう。



あ〜たまらん

滑らないように注意してね



関節のケア

「関節トラブルを起こしやすい季節。関節に負担をかけない配慮を」

フローリングにカーペットを敷いて、床を滑りにくくしたり、筋肉や関節が十分に温まらないうちは、激しい運動をさせないなど、普段から愛犬の関節に負担をかけない生活を心がけましょう。

フィラリア・ノミ対策

「フィラリア対策は蚊がいなくなっても、ノミは通年予防がおすすめ」

蚊は気温15℃以上で活動を始めるとされ、フィラリアの予防期間は、蚊が出始めた1カ月後から、いなくなった1カ月後まで。フィラリアの薬は予防薬ではなく、感染したフィラリアを月1回まとめて殺す駆虫薬なので、シーズンの終わりに感染したフィラリアを逃すことがないよう、1カ月待って最後の駆虫を行うわけです。蚊がいなくなったからといって、投薬を忘れないようにしてください。ノミは気温13℃以上、湿度50%以上で繁殖します。つまりエアコンでコントロールされた室内環境では、一年中繁殖が可能です。できれば一年を通じて予防をしたほうが安全といえます。



あったか〜い

年末年始の体調不良

「来客が多く、飼い主さんの目が届きにくいので、体調不良に気をつけて」

年末年始は忙しくて、飼い主さんの目が届きにくい時期です。来客が増えて、犬がストレスを感じたり、パーティでごちそうをおすわけされてお腹を壊したり…。普段と違う環境のため、犬が体調を崩しやすいので注意しましょう。

年末年始の休診日を確認しておきましょう。
かかりつけの動物病院の、年末年始の休診日を確認しておきましょう。また、緊急時に対応してもらえる救急病院も調べておくと安心です。

寒い季節に気をつけたい生活ケア

- 換毛期のケア
- 寒さ対策
- 誤飲・誤食に注意
- 暖房器具に注意
- 関節のケア
- フィラリア・ノミ対策
- 年末年始の体調不良

換毛期のケア

「ブラッシングで換毛を促進。健康な皮膚と被毛のためには、食事管理も大切です」

ダブルコートの犬種は、春と秋に換毛期があります。秋は夏毛が抜けて、下毛が密生した冬毛へと生え替わります。こまめなブラッシングで抜け毛を取り除くとともに、被毛や皮膚の新陳代謝を高めましょう。健康な皮膚と被毛には栄養管理も大切です。良質なタンパク質をたっぷり含み、オメガ3とオメガ6脂肪酸のバランスの良いフードを与えましょう。

寒さ対策

「温度差が体の負担に。夜間や屋外の防寒対策を心がけて」

屋外飼育なら、犬舎の入り口を覆って風の吹き込みを防ぐ、中に毛布を敷く、夜だけ玄関に入れるなどの防寒対策をしましょう。室内飼育でも、夜間、暖房を切った後の急激な冷え込みや、室内と外出時の極端な温度差には気をつけてください。散歩は暖かい時間帯を選び、チワワなど寒さに弱い犬種は服の着用も。



かじってみたい…



寒いのが苦手なんだ〜

誤飲・誤食に注意

「家の中で遊ぶことが多く、危険なものを口にすることが増えます」

寒い時期は、犬も家の中で遊ぶことが多く、退屈しのぎに危険なものを口にすることが増えます。例えば、ポインセチアやシクラメンなどの身近な植物も中毒を起こす原因に。その他にも、おもちゃの破片、ビニール、針や糸、たばこなど。最近では、人用の風邪薬や鎮痛薬、向神経薬を食べたり、熱冷まし用保冷剤をかじって中の不凍液を食べたりするケースも。誤飲・誤食は命に関わることもあります。危険なものを放置しないよう、しっかり管理してください。

季節が変わると、愛犬の生活環境も大きく変わります。思わぬ事故や体調不良を引き起こさないよう、気をつけてあげましょう。

獣医師さんの健康講座
秋から冬に気をつけたいこと！